継続は力

～３回目の認証取得を目指し、歩み続けるセーフコミュニティ～

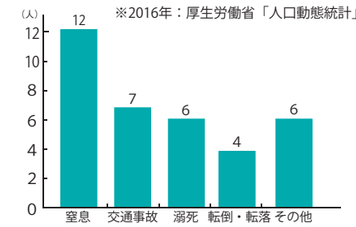
1 SCに取り組む十和田西高生の皆さん　2 昨年、事前審査を行ったSC審査員ら　3 認証自治体首長らが一堂に（SC厚木大会）　4 北里大学生もSCを応援

～今日も無事でいてほしい～を合言葉に、安全・安心なまちづくりを目指す本市。平成21年に国内2番目となるセーフコミュニティ国際認証を取得してから、今年で10年目を迎えました。3回目の認証取得に向け、現在も継続してさまざまな活動を展開しています。

けがや事故の予防のカギはデータ分析

セーフコミュニティ（以下、SC）の取り組みを進めていく上で重要になるのは、けがの状況など各種データの分析です。どういう状態で、どのようなけがをしているのか、どの年代が多いのかなど、厚生労働省の人口動態統計などを収集、分析し、市が重点的に取り組む課題は何かを明らかにし、課題解決に向けて対策を立てていきます。

（事例）本市の不慮の事故による死亡者数



本市の不慮の事故死は窒息が１番多い（上表から）
STEP 1　窒息死が多い年代、原因について分析
STEP 2　結果、高齢者に窒息死が多いことを把握
STEP 3　高齢者の窒息死を減らすための対策を協議、実践

本市では、「子どもの安全」や「自殺予防」など8分野を重点課題とし、官民一体となった対策部会を設置、課題解決に向けた取り組みを進めています（4～5ページ参照）。

世界で取り入れられているSC

SCの取り組みは、世界各国、約300のコミュニティで、安全・安心な地域づくりの手法として取り入れられており、日本では、これまで15自治体が認証を取得しています。

昨年度は、認証自治体の一つである神奈川県厚木市で、「第9回アジア地域セーフコミュニティ会議厚木大会」が開催され、韓国、台湾など国内外から約600人が参加しました。

本市からは、小山田市長らが参加。SC認証自治体の首長などによる「ラウンドテーブル」では、本市の特徴ある取り組みとして、市民ボランティア団体の活動を発表するとともに、各首長らと活発な意見交換を行いました。

会議で発言する小山田市長

※**セーフコミュニティとは…**
「けがや事故は予防できる」という考え方のもと、市民が安全で安心に暮らすことのできるまちを目指す国際認証制度です。

若者への認知度向上へ 高校生が活動を開始

本市のSCでは、新たな活動が始まっています。

昨年度、県立十和田西高観光科の2年生（当時）が、市が実施している「ふるさと出前きらめき講座」の一つとして、SCに関する講座を受講しました。

生徒たちの、セーフコミュニティって何？という雰囲気の中、市民ボランティア団体「とわだセーフコミュニティをみんなですすめ隊」の新井山洋子顧問が、市がSCに取り組んだきっかけや現在の状況などについて話しました。

約1時間という短い時間でしたが、聴講した長畑優奈さんと亀谷七海さんは、「自分たちの命を守るためにも大事な活動なのに、どうして今まで知らなかったのだろう…私たちも協力して、SCの取り組みを広めていきたい」と思い、独自に活動を始めました。

まず、最初に取り組んだのは、市民アンケートです。自分たちが知らなかったSCについて、他の人はどの程度知っているのか、街に出て調査を行いました。

その結果、街行く人でSCを知っていると回答した人は33％、西高1年生ではわずか2％という、非常に認知度が低い状況が明らかになりました。長畑さんらは、生徒（若者）のSCに対する認知度が低いことに着目し、若者にSCを広めるためにはどのようなことを行えばいいのかと考え、

①セーフコミュニティ通信（チラシ）の作成
②キャラクターづくり
③宣言カードの作成

を考案、実践し、昨年度末に行われた「地域生活研究学習発表会」で、SCの取り組みを発表しました。

考案したキャラクターを手にする長畑さん（左）と亀谷さん

命に関わるSC 一人でも多く参加を

長畑さんらは、自身の活動を振り返り「SCは、市民一人一人の命に関わる大切なことを行っています。大人だけでなく、私たち高校生や小・中学生もSCのことを知って、より良い十和田市をつくるために、一人でも多くの人に活動に参加してほしいです」と、力強く話しました。

6月21日、今年度もSCに関する講座が行われました。講話の後、生徒から「SCのロゴはどういう意味ですか？」と質問がありました。講師を務めた新井山さんは、SCに関心を寄せてくれたことが嬉しく、「”十和田“の文字を図案化したものよ」と、笑顔で答えていました。

7月17日には、西高家庭クラブ員が講師となって、市立沢田小学校の4～6年生の児童にSCの啓発授業を行いました。生徒はSCがどういう取り組みか話し、児童と一緒に宣言カードを作成。自分たちの身近なところからSCに取り組んでいこうと呼び掛けていました。

沢田小で行われた西高生による授業

10年間続いてきた本市のSCの取り組み。いまだ道半ばではあるものの、着実に成果を上げながら、新たな輪も広がり始めています。これからも、一人でも多い市民参加と協働の中「今日も無事でいてほしい」という願いをかなえるため、歩みを進めていきます。

十和田市いのちを守る運動月間～安全・安心なまちづくり総決起大会を開催～

本市では、初めてSCの国際認証を取得した８月を「十和田市いのちを守る運動月間」と制定し、毎年、事故やけがによる死亡事故などをみんなで予防するために総決起大会を開催しています。

とき　８月２日㈮　午後１時30分～３時30分
ところ　市民文化センター
内容（予定）
・北園小学校リトルJUMPチームによる活動発表
・十和田西高生によるSCに関する活動発表
・８つのSC領域別対策部会のうち、暴力・虐待予防対策部会、余暇活動の安全対策部会の活動発表
・（一社）日本SC推進機構　白石 陽子代表理事による講演

セーフコミュニティについてのお問い合わせは、まちづくり支援課（☎㊿6777）へ